

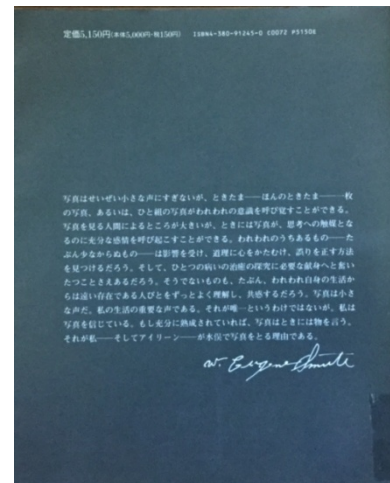
## 写真集 水俣 MINAMATA

表題と写真は 1982 年に三一書房から刊行の写真集。著者は W.ユージン・スミス、アイリーン M.スミス、訳者は中尾ハジメである。1991 年 12 月発行「新装版第 1 版」とある。名古屋市立女子短大に在職中「個人研究費」で購入した。講義などで活用してきたが、退職により図書館に返却した。このたび借り出して、久しぶりに写真集を手にとった。

表紙裏側にユージン・スミスさんが次のように書いている。これまで、あまり注目してこなかったが、写真集・水俣の「ところ」を感じさせる。

写真はせいぜい小さな声にすぎないが、ときたま —ほんのときたま— 一枚の写真、あるいは、ひと組の写真がわれわれの意識を呼び覚ますことができる。写真を見る人間によるところが大きい、ときには写真が、思考への触媒となるのに十分な感情を呼び起こすことができる。われわれのうちあるもの—たぶん少なからぬもの—は影響を受け、道理に心をかたむけ、誤りを正す方法を見つけるだろう。そして、ひとつの病の治癒の探求に必要な献身へと奮いたつことさえあるだろう。そうでないものも、たぶん、われわれ自身の生活からは遠い存在である人びとをずっとよく理解し、共感するだろう。写真は小さな声だ。私の生活の重要な声である。それが唯一というわけではないが。私は写真を信じている。もし十分に熟成されていれば、写真はときには物を言う。それが私—そしてアイリーン—が水俣で写真をとる理由である。

じつは、この写真集を名市大図書館から借り出したのには「わけ」がある。京ちゃんご家族から、写真集を読みたいという嬉しい「要望」があった。そこで図書館で探して借り出し、じっくり読んでもらった。重い障害をもちながら、元気に堀田小学校に通う 5 年生の京ちゃん。そのご家族なだけに、「写真を見る人間によるところが大きい、ときには写真が、思考への触媒となるのに十分な感情を呼び起こすことができる」というスミスさんの言葉を実感できた。



(2016 年 6 月 3 日)